

# 特別支援教育研究部

## 1 研究主題

「子ども一人ひとりの願いを生かし、主体的に生きる力を育む特別支援教育」  
～多様なニーズと教育課程～

## 2 研究主題について

昨今の現場のニーズに合わせて研究主題と部会構成を見直し、本年度より新たな組織を発足させた。個別支援学級在籍児童数の増加、個の実態の違い、知的障害学級と自閉症・情緒障害学級のカリキュラムの違いなど、多様なニーズに応じた研究の推進を目指している。

## 3 研究方法

今年度より、部会をA・B・Cの三つに分けた。A・B部会は、区のA/B研の教科とリンクできるように、C部会は自立活動や生活単元学習など、個別支援学級ならではの教科領域を扱う部会とした。会員からアンケートを取り、毎回の部会のテーマをニーズに合わせて決定した。学級経営の様子や教室環境などについて、その場で情報共有できるように、部会を様々な方面の学校で行うこととした。また、LDシリーズとして、外部講師を招いて年3回の合同研修会を計画・実施した。コロナ禍であった今年度は、講演会や部会、第二次教育研究大会など、ICTを活用して研究を進めた。

## 4 年間事業報告

4月	24日	書面総会
6月	10日	拡大役員会
7月	1日	幹事部長会・本部役員会
9月	9日	研究部会合同研修会【ZOOM開催】 「LDシリーズpart1 発達から学業不振をどう考えるか」 講師 東戸塚こども発達クリニック 小澤 武司先生
	16日	幹事部長会・本部役員会
10月	7日	研究部会①（A・B・C）
11月	4日	研究部会②（A・B・C）
12月	2日	研究部会合同研修会【ZOOM開催】 「LDシリーズpart2 感覚統合の観点から文字学習の支援を考える」 講師 よこはま港南地域療育センター 松本 政悦先生
	9日	幹事部長会・拡大役員会・本部役員会
	21日	小中役員連絡会 会場：横浜市立仏向小学校
1月	13日	第46回横浜市小学校教育研究会第二次教育研究大会特別支援教育部会【ZOOM開催】・本部役員会
	27日	横浜市立学校総合文化祭図画工作・美術・書道作品展 特別支援教育部門（～1月31日）
2月	10日	研究部会③（A・B・C）【ZOOM開催】 第63回横浜市小学校個別支援学級・特別支援学校合同学習発表会
3月	3日	研究部会合同研修会【ZOOM開催】 「LDシリーズpart3 読み書き指導の実際」 講師 東戸塚こども発達クリニック 尾崎 浩子先生
	10日	幹事部長会・拡大役員会・本部役員会
	29日	本部役員会

## 5 研究の成果と課題

### 【第二次教育研究大会】

＜第1分科会 神奈川区＞発表者 長谷川 永治先生（中丸小）

テーマ「一人ひとりの児童の個性に応じた指導・支援のあり方  
～児童がすすんで活動に取り組む学習環境の工夫～」

- （1）発表の要旨：国語科で児童の好きなものについて自己紹介、他己紹介する単元を通し話す・聞く力をつけることができた取組が報告された。
- （2）協議内容：提案を受け、その後の子どもの変容について質疑が行われた。
- （3）指導講評〈茅ヶ崎小学校 宮崎 美代子校長〉：聞き手、話し手を育てる手立てができていた。子どもたちが話す力・聞く力を伸ばすためには、私たちが、まず「良い聞き手」「良い話し手」である必要がある。

＜第2分科会 金沢区＞発表者 木幡 周祐先生（文庫小）

テーマ「児童が楽しみながら取り組める指導のあり方」

- （1）発表の要旨：児童の興味や関心を生かしてストーリー化したり、視覚的な支援を行ったり、めあてを共有化したりしながら行う体育科、跳び箱の学習に取り組んだことが報告された。
- （2）協議内容：めあての記録方法について、どのような工夫がされているか質疑が行われた。
- （3）指導講評〈鶴ヶ峯小学校 荻原 規彦校長〉：一人ひとりの運動実態の把握を的確に行う。「意欲・興味、必要感、切実感」が、子どもの向上心につながっていた。何よりも教師の「やってみたい、やってみよう」という創造力が大切である。

＜第3分科会 A部会＞発表者 能登 宏介先生（山下みどり台小）

テーマ「『できる喜び、楽しさ』を味わい自立活動の視点を取り入れた授業をめざして  
～子どもの実態を踏まえた指導・支援の工夫～」

- （1）発表の要旨：ファシリテーション・グラフィックス技法を用いた授業展開について提案が行われた。
- （2）協議内容：学習課題の設定の仕方について質疑が行われた。
- （3）指導講評〈今宿小学校 島田 恒弘校長〉：情緒障害の子どもたちにとって、自立活動の視点を取り入れることで環境を整備して、授業に自信がもてる。情報を整理することで、子どもの理解が深まり、意欲がわいてくる。自閉症・情緒障害の教育課程にもとづいた授業であった。

### 【成果と課題】

- LDをテーマに3回シリーズで合同研修会を行った。講師の協力を得て、3回ともZOOMにて講演会を行った。申込みやアンケートはQRコードを使い、資料は、学校共有フォルダーからダウンロードするようになった。また、チャット機能を使い、講師への質問等をその場で受け付けられるようにした。当日は、授業後に自校より視聴できるため、例年より参加者が多く、好評だった。
- 第二次教育研究大会においても、ZOOMを活用した。接続がうまくいかないなどの課題も残ったが、参加者は多く、テーマに対するニーズの高さが窺えた。
- 部会については、組織の改編により、日頃行っている授業について、情報共有を多く行うことができた。また、例年は時間になっても参加者が到着しないことが多かったが、ZOOMの場合は時間通りに始めることができた。
- ▼リモートでの資料提供の在り方について共通理解が必要であった。
- ▼提案者によっては、リモートに不慣れで、接続や資料提示に時間がかかった。
- ▼ZOOMによる部会は、双方向のやりとりは難しく、やや一方的な実践提案になりがちであった。